［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成22年 2月14日

【評価実施概要】

事業所番号	第4670105198号
法人名	社会福祉法人　陽光会
事業所名	グループホーム　サンライト
所在地	鹿児島県鹿児島市川上町570-297 （電　話）099-295-7878

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉21かごしま
所在地	鹿児島県鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成22年2月14日

【情報提供票より】(22年　1月10日事業所記入)

開設年月日	平成　18年　4月　15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9　人
職員数	8　人	常勤　6人，非常勤　2人，常勤換算	7.55 人

(2)建物概要

建物構造	木・鉄骨造りスレート葺造り
	2 階建ての　1 階 ～　1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000　円		その他の経費(月額)	円
敷　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(　100,000円)		有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,200　円			

(4)利用者の概要(　1月10日現在)

利用者人数		9 名	男性　2 名	女性	7 名
要介護1		0　名	要介護2	2	名
要介護3		3　名	要介護4	4	名
要介護5		0　名	要支援2	0	名
年齢	平均	85.9 歳	最低　71　歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	肥後クリニック・中央病院・盛満医院・上山クリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

新興住宅地に民家に溶け込むように建っている。地域と密着したくらしができる場所を探して奔走し、買い物に便利で公園が近くにあり、静かで外出しやすい現在地に建てた。また、家族とのコミュニケーションを重要視し、利用者と家族の関係の構築、満足度調査による要望の吸い上げ、家族会や運営推進会議の参加の声かけに工夫を試みている。近隣の住民との交流にも気を配り、地域包括支援センターとの関係づくりも順調である。昨年は職員の異動があったが、比較的高い年齢層の職員を配置することで、利用者のペースも守られ安定する結果につながった。ホーム内はゆったりと落ち着いた雰囲気で笑い声や冗談が飛び交う。利用者の安心・安全なくらしを守るために、研修を繰り返し、記録やミーティングの充実を図ることで高い専門意識を持ち、課題を見つけながらさらに努力を続けるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)** 昨年度の結果を職員会議で伝達し、「家族への報告」「職員を育てる取り組み」の改善課題ついて、金銭管理の再検討や、職員研修計画の充実を図るなどすぐに取り組みを始めている。また、家族会や運営推進会議でも報告し、玄関に評価結果を備え誰もが目を通すことができるようにしている。 **今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)** 自己評価は全員が項目ごとに考えたものを話し合いまとめたものである。その際、項目と関係する内容にも話が広がり、まとめが難しいほど活発な意見交換ができ、事業所の質の向上につながる職員の意識付けとなった。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)** 利用者代表、家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員などの参加があり2カ月ごとの開催である。家族代表は交代でなるべく多くの家族に参加していただけるように配慮している。昨年度の外部評価結果についての報告が行われたり、事業所への意見や質問などがあり有意義な会になっている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)** 毎年満足度調査のアンケートを取ったり、年2回の家族交流会でも要望や苦情を聞く機会を設けるなど、家族との関係を重要視している。運営推進会議に出席する家族も固定化しないように配慮し、多くの家族の意見を吸い上げようと努力している。さらに第三者委員会を設置し苦情などを外部者へ表せる機会を設けている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)** 町内会に入会し、清掃活動や総会に参加したり、回覧板のやり取りを行ったりしている。また、地域の方を行事に招待したり、小・中学生、高校生との交流を図ったり、できるだけ機会を見つけ地域との関係づくりに向け努力している。

2. 評 価 結 果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に職員全員で作成したグループホーム独自の理念がある。「思いやりとやさしさの気持ちで地域に溶け込む」などの言葉を含み、地域に根ざしたサービスを意識できる内容が盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎年、職員全員で理念の再確認と見直しの必要性について検討している。日々の業務の中でも常に理念に立ち返りケアを振り返るようにしている。また、作成された理念は掲示したり、パンフレットに明記したり、運営推進会議で紹介するなど職員のみでなく来所者にも伝えている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、清掃活動や総会に参加したり、回覧板のやり取りを行ったりしている。また、地域の方を行事に招待したり、小・中学生、高校生との交流を図ったり、できるだけ機会を見つけ地域との関係づくりに向け努力している。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員が項目ごとに考えたものを話し合いまとめたものである。その際、項目と関係する内容にも話が広がり、まとめが難しいほど活発な意見交換ができた。昨年度の結果は職員会議で改善内容を話し合い、積極的に取り組んでいる。また、家族会でも報告し、玄関に評価結果を備え誰もが目を通すことができるようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表、家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員などの参加があり2カ月ごとの開催である。家族代表は交代でなるべく多くの家族に参加していただけるように配慮している。昨年度の外部評価結果についての報告が行われたり、事業所への意見や質問などがあり有意義な会になっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に担当窓口へ出向いたり、電話により積極的に相談や情報交換を行っている。また、毎年定期的に介護相談員を受け入れ、利用者などが外部の人に相談できる機会を提供している。さらに、市介護保険課と連携を取りながら地域の老人福祉施設のネットワーク作りにも参加している。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問がおおよそ月1回以上あり、その際利用者の暮らしぶりや職員の異動、金銭管理などを伝え、家族による出納簿の確認も行う。外部評価を機会に小口現金の管理や領収書発行を再検討した。ホーム便りも毎月配布し写真を利用し利用者のようすを紹介している。健康状態に変化があった時にはそのつど家族へ報告し、ノートにも記載するなど報告、記録を徹底している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年満足度調査のアンケートを取ったり、年2回の家族交流会でも要望や苦情を聞く機会を設けるなど、家族との関係を重要視している。運営推進会議に出席する家族も固定化しないように配慮し、多くの家族の意見を吸い上げようと努力している。さらに第三者委員会を設置し苦情などを外部者へ表せる機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は職員の異動による利用者への影響を考慮しているが、昨年は異動が多かった。日ごろから母体施設との交流を行い、引き継ぎ期間を十分に設けるなど、利用者の混乱を防ぐための対応をした結果、むしろ利用者から新任職員への助言や思いやりの声かけが聞かれた。また、家族へは便りや家族会、来所などの機会に速やかに報告している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関連施設と協力して年間計画を立てた研修が毎月2回は行われている。新任研修計画、段階に応じた計画、資格の取得や施設外研修への参加も積極的である。研修によっては、勤務の調整をしたり受講費を法人が負担するなどの支援を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ協議会や社会福祉協議会主催の研修で意見交換を行いながらサービスの質の向上を図っている。また、吉野地区のグループホーム・介護施設とネットワークを作り、交流や連携を図っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にできるだけ本人や家族にホームの見学をしてもらい、一緒にお茶を飲んだりしながらホームの雰囲気を感じていただくようにしている。施設からの入居の場合は管理者などが訪問し、心配や希望を聞き取り、本人がホームに馴染みやすいように気を配っている。また、入居後は家族の訪問を多くしてもらうなどの協力を求め、ともに支援している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とともに過ごす中でお菓子作りや配膳、下膳、そうじなどを一緒にしたり、行事や季節の習わしを教えてもらうなど、学んだり支えあう関係を築いている。また、定例会では職員間で常に「支えあう関係」について確認し意識づけをしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前に本人や家族、その他の関係者からどのように暮らしたいかを聞き、アセスメントシートなどに記載し、介護計画に活かしている。入居後は食事やお茶を飲む時間を利用し、意思疎通の難しい利用者は選択肢を示しながら、思いや意向を引き出している。気がついたことは職員申し送りノートに本人のことばをそのまま使って書きとめ、職員間での共有を図っている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者の希望や意向を基に、往診時に主治医と相談したり、書面で「在宅療養生活のポイント」を助言してもらい計画を作成している。また、家族にもFAXで意向を確認し、定例会や職員会議で話し合うことで、職員の気づきやくみ取った利用者の意向を反映した介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の介護記録にはケアプランが記載され、職員は目標や内容を毎日確認し、実施したサービスを記録している。さらに、毎月1回は評価を行い、状態に変化があり計画の見直しが必要な場合は担当者会議を開いて再度計画を作成している。また、状態に変化がなくても3－6ヶ月毎にアセスメントを行い新しい計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人の特養と連携を図り娯楽面や災害・救急時のサービスの強化を図ったり、アニマルセラピーや化粧教室など社会資源を生かして安心や楽しみを支援している。また、利用者の通院介助や早期退院に向けての支援なども柔軟に対応している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の時点で主治医の選択に関しては利用者及び家族の希望を大切にすることを伝え、以前からの主治医には入居後初めて受診する際に管理者などが同行し、主治医との関係作りを行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重症化した際や終末期に関する指針に沿ってケアを提供している。入居の際、家族などに説明し早期に同意を得られる場合は同意書を作成し、入居後は利用者、家族の意向を確認し、主治医などと対応方針を話し合っている。毎年看取りについての研修を取り入れ職員間で方針や対応の共有を図っている。		
１．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護方針についての掲示があり、記録等は外来者の目に触れないように事務室に保管している。利用者への日頃の対応については、毎年研修で倫理・プライバシー確保・守秘義務などを確認したり、居室やトイレなどのプライバシーについても話し合いながら個人を尊重するケアを実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や希望を考慮し、声をかけ、決まるまで待つ姿勢で支援している。寝たきりの方が椅子に座り自分の力で食事することができるようになるなど、本人のペースを大事にした支援の結果が出て、職員の自信にもつながっている。訪問時も本人の着衣・理美容などの選択を支援し、その人らしい暮らしができるように配慮している様子がうかがえた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立をあらかじめ作らず、利用者との会話から決めるようにしている。利用者とともに買い物に行き、調理を楽しんだり、食卓の準備をしながら、食事の希望や食欲を引き出す工夫をしている。大変さはあるが、会話の中から新たな発見があったり、職員の経験にいかされたりしている。口腔ケアや嚥下体操を行い、食事を安心しておいしく食べられるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には午後の入浴であるが、希望に合わせて午前中でも対応している。ゆったりと楽しめるように工夫するとともに、入浴前後の利用者の身体の状況にも気を配っている。入浴がスムーズに行えない利用者にはシャワーや足浴なども含めて個別に対応している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に本人や家族から好きなことや得意なことを聞き取り職員間で共有している。入居後もレクリエーションや日々の暮らしの中で試行錯誤しながら新たな力を発掘する取り組みを行っている。また、アニマルセラピー、化粧教室、リハビリを兼ねたマッサージ、お菓子作りなど楽しみながら心身機能の維持や向上にも努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	すぐそばに公園があり車いすでも行きやすく、近隣の住民や子どもとの交流の場所となっている。和室の広い窓を開放しての外気浴や畑での土いじりなど日常的に外気に接することで、気分転換やストレスの発散、五感刺激を行っている。また、特養や地域の行事、ドライブなど外出の機会も豊富である。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束等について会議や研修を行い、玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしを実現するための努力をしている。職員は常に利用者の状態を把握し、外出するときにはさりげなくついて出たり、見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した訓練も含め、避難訓練を年2回行っている。さらに、風水害マニュアルは現在見直しを検討中で、職員間の共有を図り、非常用の食品などは近くの特養に保管し、スプリンクラーの取り付けも完了した。近隣に聞こえる警報システムを設置し地域の方へも協力を呼び掛けている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の食事量やおおよその飲水量を毎日把握し、排泄状態も観察しながら体の状態を判断しケアに活かしている。栄養バランスや献立については法人の管理栄養士に2週間ごとに相談し、食事の形態も一人ひとりの能力を見極め工夫している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる人形が飾られ、中庭に面した和室やホールのソファやテーブルでゆったりとくつろぐ利用者の姿があった。管理者は利用者が自宅と同じような感覚で生活できるような空間づくりを心掛けている。台所の音や職員の声にも気を配り静かでゆったりとした雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面台が全ての居室に設置されている。使い慣れた家具や仏壇が持ち込まれ、思い出の写真をはじめ、趣味の品など利用者の馴染みのものが飾られている。また家族とも相談しながら部屋作りをしている。		